



■JVあいさつ（工事現況）

平素は当工事にあたり、地域の皆様には大変お世話になっております。

浜田ダム再開発工事は、6月15日までに底泥処理工を終え、4月に始めた堤体下部及び減勢工のコンクリートを1,850m³(全体の11%)打設しました。

6月16日からは、洪水期ということで、河川内の工事について制約を受けます。これにより減勢工内の工事用資材、仮設備の大部分を撤収しました。

現在、第二浜田ダムの今年10月からの試験湛水を控え、浜田ダムの監査廊(内部)で計測用計器を設置する準備を進めています。また減勢工下流側では、護岸・護床工のための掘削作業のみを行っています。

今後も地域の皆様にはご不便をかけることもあるかもしれませんが、安全に留意し工事を進めてまいります。よろしくお願いいたします。

■工事の進捗状況



【前号と比べて】

- ①：ダム下流面の見た目はあまり変わりません
- ②：工事車両、仮設材が無くなりました
- ③：底泥処理工が終わり、上流の構台上の設備が撤去されました
- ④：減勢工の下流側での掘削工事をやっています

■工事トピックス

『高強度コンクリート・高流動コンクリート』

浜田ダムの常時水が流れる部分に使用されるコンクリートは、『高強度コンクリート』と呼ばれ、市中でよく使われるコンクリート(18~24N/mm²)のおよそ2倍の強度(41N/mm²)があります。これは、上流から流れてくる水に土の粒子が含まれていて、流れによってコンクリートをすり減らせることに對抗するためです。

最も水が良く流れる部分は、ステンレスの板でライニング(被覆)します。これらの下部には、『高流動コンクリート』と呼ばれるコンクリートを打設します。高流動コンクリートは、一般のスランプのあるコンクリートと違い、字のごとく”高い流動性”を持ち、バイブレーターによる締固めの必要がありません。10m位は流れていくので、確実な充填性が見込めます。

下の写真は、それぞれのコンクリートの試験の様子です。真ん中の容器(上下に穴)にコンクリートを詰め、上に引き抜いた時の状況です。



高流動コンクリートの試験結果
(60cmくらい広がります)



スランプ試験器
(高さ30cm)



高強度コンクリートの試験結果
(一般のスランプコンクリート: 約10cm)

『ダムの監査廊』

ダムの中には『監査廊(かんさろう)』と呼ばれる点検用の通路があります。一般には開放されていませんが、通常ダムの機能の点検の為に使われています。

監査廊の中は、山岳のトンネルや洞窟と同じで、一年中ほぼ15~20℃くらいの気温です。夏は涼しく、冬は暖かいというわけです。

広島県の温井ダムでは、監査廊の一部を一般開放しています。興味がある方は一度行かれてみてはいかがでしょうか。



通行規制のお知らせ(8/1~8/31)

現ダムの下流で発破工事を行います。安全確保のため、ダム天端を一時的(10分程度/回)に通行止めさせていただきます。交通誘導員がいますので案内に従って下さい。規制の有無については現地看板に表示します。ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いいたします。

■日時	平成27年8月1日(土)~31日(月)のうちの発破作業日 8:30~17:00のうち発破時間
■場所	浜田ダム天端道路
■規制	10分程度/回の通行止め

発行・お問い合わせ先

鹿島・フクダ・祥洋特別共同企業体 浜田ダム再開発工事事務所 HPアドレス <http://renew-hamadadam.jp/>

〒697-0011 浜田市後野町2246-31(第二浜田ダムJV事務所内) TEL.0855-25-5356 FAX.0855-25-0077